日刊
動労千葉
79.2.3
No. 24
国鉄動力車労働組合
千葉地方本部
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九（公衆）〇四七二(22)七二〇七

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

# 千葉地本排除策動の具現＝指令なき集団

## 津田沼に機動隊を配置【2月1日早朝より】

### 権力の闇う千葉地本弾圧に手を貸す反動の実態！

二月一日水上・「松の井ホテル」に集結した三〇〇名の〝指令なき集団〟は「とき8号」その他に分乗し東京方面へ向い、一三時～一四時に上野および東京駅で四散した。

国家権力はこの〝指令なき集団〟が行動を開始した一一時から一五時頃まで、津田沼駅および津田沼電車区周辺に多数の機動隊を配置し千鉄当局は騒然となった。また朝から津田沼駅ホームを中心に「学生」風の偵察部隊とおぼしき一〇名余が徘徊しはじめたのである。

この事態を一体何と見るのか。

これは明確に「千葉地本排除＝組織破壊策動」の具体的現れである。

―二月一日一六時三〇分―
津田沼支部勝利確認の総括集会！

千葉地本の中心的活動家八〇余名を「指令」をもって中央本部へ招集し、それと時を同じく、何の指令・指示もないまま〝動労〟を名のる五〇〇～六〇〇名が集結するという異常さを一部反動分子はいったい何と釈明するのか。しかも、これを察知（または連動）した権力は三里塚・ジェット闘争を闘う千葉地本弾圧の絶好のチャンスとばかりに、中心的支部である津田沼支部周辺に機動隊を配置し、介入の機会をうかがっていたのである。

われわれはこの明確な千葉地本排除＝破壊策動を満腔の怒りをこめて糾弾する。

この〝指令なき集団〟は津田沼駅で機動隊に守られながら動き回った偵察部隊からの報告で、連日支部防衛のために決起し、この三一日は勤務あけの組合員や非常呼集で結集した一〇〇名近くの青行隊を中心とする津田沼支部の防衛体制に恐れをなしたのか東京で四散した。

津田沼支部は一六時三〇分、他支部からかけつけた部隊も含め約一五〇名で総括集会を開催し、地本・支部一体となった防衛体制で、一月三〇日から顕在化した千葉地本排除＝破壊策動を封殺・粉砕し勝利したことを確認した。

―千葉地本排除策動の体現！―

動労青年部情報号外（一九七九年二月一日付）は千葉地本は一方的に「千葉地本排除」キャンペーンをはっていると非難している。しかし、この一月三〇日、二月一日の事態は鮮明に「千葉地本排除策動」を体現しているのではないか。われわれはこの他にも、一二月二七日中執委の前段、一月八日中執委の前段にも今回と同じような策動があったことを知っている。そのためにこそ革マル派は一二月二〇、二一日、「千葉地本を擁護するものは排除するぞ」というデマビラを全国でばらまき、津田沼支部・綾部君への不当な攻撃をしかけてきたのではないか。われわれは綾部君に関する新幹線地本から本部への申し入れが事実に基づいていないことを調査の結果把握している。

中央本部は今回の一部分子の異常な行動がいかなる指令・指示に基づいて行われたのか。今回の行動に必要な費用を誰がどのような形で負担するよう整理されたのか、四万七千組合員の前にすみやかに明らかにすべきである。

## 小牛田事件による不当解雇に抗議する！

国鉄当局は、小牛田事件の仙台地本小牛田支部福内潰二氏等七名に対し、一月三一日突如として、最高裁不当判決を理由に懲戒免職処分を通告してきた。

小牛田事件とは、六九年一一月三日東北線小牛田駅ホームにおいて、助士廃止闘争の過程に動労を脱退し、鉄労に加入した佐久間某等に対し抗議行動中、暴行を働いたとしてデッチ上げられたものである。この攻撃は、「労使正常化」路線をもって国鉄労働運動を抱えこむ一方、闘う拠点地本には、弾圧・組織破壊攻撃を集中させるという当局の新マル生攻撃であり、動労全体に対する攻撃としてとらえなければならない。

千葉地本は、こうした新マル生攻撃に断固として抗議し闘うことを明らかにする。

仙台地本小牛田支部へ激電を！

≪宛て先≫
宮城県遠田郡小牛田町素山
小牛田運転区内
動労小牛田支部　宛

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！